

授業コード	科目名	助産管理学 Introduction to Midwifery Management			担当教員	小西清美、宮里直美、 川満恵子、県立北病院師長
助 122					E-mail	konishi@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
2	1	通年	6	新研 419	月曜日 5 限・金曜日 5 限	
1. 授業の概要						
<p>助産師は安全で快適に女性、子どもとその家族が妊娠・出産・育児期を過ごせるように助産ケアを提供する役割がある。本科目では、助産業務の管理および助産所の運営に必要な管理の基本とマネジメントを理解し、助産師業務を評価・調整する基礎的な知識を修得する。助産所運営ガイドライン、医療安全対策の実際を理解し、チーム医療や施設と地域連携における助産師の役割を考察する。</p>						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1) 助産業務管理の基本とマネジメントを理解する。 2) 助産業務遂行に関する法令について理解する。 3) 病院施設における助産業務管理について理解する。 4) 安全管理対策（リスクマネジメント・感染対策・防災）を理解する。 5) 助産所における助産業務管理について理解する。 6) 助産所の特徴や経営の実際について理解する。 7) 周産期医療システムの実際について理解し、チーム医療や施設と地域の連携について考察ができる。 						
3. ディプロマ・ポリシー（DP）との関連性						
<p><倫理観、態度></p> <p>(DP1) 思いやりのある豊かな人間性を培い、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力</p> <p>(DP4) 産む人のニーズを尊重した満足で安全な分娩介助ができる能力</p> <p>(DP6) 助産師としての責任と義務を認識し、グローバルな視点で地域・国際社会に貢献できる能力</p> <p>(DP7) 社会の変化を敏感に察知し、生涯にわたり自己の資質の向上に努める能力を身につけ、助産学の発展に貢献できる能力</p> <p><専門的知識・技能・思考力・判断力・表現力></p> <p>(DP2) 女性のライフサイクル各期におけるリプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する支援ができる能力</p> <p>(DP3) 離島・へき地の地理的特性を踏まえた周産期における母子及び家族の健康課題の支援ができる能力</p> <p>(DP5) 保健・医療・福祉・行政との連携を図り、協働して継続的な支援ができる能力</p>						
4. 授業計画と内容						
第 1 回	ガイダンス、助産管理学とは、助産管理とマネジメント					(小西)
第 2 回	助産管理の概念、助産と医療経済 関連法規と助産師の義務・責任					(小西)
第 3 回	産科における医療事故、法的責務、助産業務ガイドライン、					(小西)
第 4 回	病院における助産業務管理（周産期管理システムと助産業務管理、新生児集中治療室 母体搬送システム、オープンシステムなど）					(外部講師)
第 5 回	病院における助産業務管理(人材育成、労務管理、外来管理院内助産システム等)					(外部講師)
第 6 回	病院における助産業務管理(リスクマネジメントの基本、産科における医療事故、 法的責務、感染対策・安全管理など)					(外部講師)

第7回	病院における助産業務管理(地域との連携、書類管理、財務管理、業務の質管理など)
第8回	災害時の対応と助産ケア (外部講師)
第9回	助産所とは (宮里)
第10-11回	助産所における業務管理・運営 (助産業務とガイドラインに基づく運営管理、医療安全) 助産所における経営 (助産所の特徴や経営の実際、開業に関する法規、地域連携など) (川満)
第12-13回	助産と経営(沖縄県未来センターの開設と実際、助産所の環境・設備・備品など) (宮里)
第14回	無床助産所の業務管理・運営について (外部講師)
第15回	どのような助産所を開設したいか (外部講師・小西)
第16回	期末試験
5. テキスト・参考文献	
<ul style="list-style-type: none"> ・助産学講座1 基礎助産学1 助産学概論 我部山キヨ子・武谷雄二編集 医学書院 ・助産学講座10 助産管理 我部山キヨ子編集 医学書院 ・「助産業務ガイドライン」 日本助産師会 ・「産婦人科診療ガイドライン」日本産婦人科学会／日本産婦人科医会 ・「助産師基礎教育テキスト 第3巻 周産期における医療の質と安全」 成田伸編 日本看護協会出版会 <p>この他の参考図書は、随時紹介する。</p>	
6. 準備学習	
予習をして授業に臨むこと。	
7. 成績評価の方法	
期末試験	80点
活動状況 (授業態度、授業へのコミットメント等)	20点
合計	100点
8. 履修の条件	
前期の科目を全て履修していること。	
8. その他	
特になし	

授業コード	科目名	国際母子保健学 International Maternal and Child Health			担当教員	阿部正子、横川裕美子 橋本麻由美（学外）
助 123						
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	通年	6	新棟 423	月曜日 6 限（teams でも可）	
1. 授業の概要						
<p>世界の母子保健の現状と課題を国や地域の社会状況、文化の違いとともに理解する。国際母子保健に関わる国際機関、政府関係機関、JICA、NGO の役割および助産分野における国際協力の在り方について学習する。開発途上国や在日外国人など母子を取り巻く地域社会の環境・健康問題と助産師の役割、使命について国際的な視野から学ぶ。また、文化、価値観を踏まえた国際活動の具体例を通して検討する。</p> <p>*授業形態（遠隔授業または対面授業）等、予定を大きく変更する場合は事前に周知する。</p>						
2. 到達目標						
<p>1) 開発途上国や先進国における母子保健の現状を統計データから説明できる</p> <p>2) 在留外国人母子への文化を尊重した保健活動や助産の在り方について理解できる</p> <p>3) 国際保健医療プロジェクトの基本的概念を理解できる</p> <p>4) 開発途上国における母子保健のニーズと助産師の役割・活動を関連づけて説明できる</p>						
3. ディプロマ・ポリシー（DP）との関連性						
<p>到達目標である国際母子保健の現状と国際保健医療プロジェクトの基本概念について理解することは DP1, 2, 5, 6 と関連する。また、在留外国人母子への文化を尊重した保健活動や助産の実際について理解することは、DP5, 6 と関連する。さらに、課題レポートやディスカッションを通じて自分の考えを述べることは DP7 につながる。</p>						
4. 授業計画と内容						
第 1 回 国際的な母子保健の現状：母子保健統計、社会情勢、文化的背景（阿部）						
第 2 回 文化背景を尊重した看護ケア理論（横川）						
第 3 回 在日外国人の母子保健（横川）						
第 4 回 世界の出産と文化（阿部）						
第 5 回 国際母子保健の潮流と動向①（橋本）						
第 6 回 国際母子保健の潮流と動向②（橋本）						
第 7 回 開発途上国における助産活動の展開①（橋本）						
第 8 回 開発途上国における助産活動の展開②（橋本）						
5. テキスト・参考文献						
助産学講座 1 助産学概論，医学書院						
助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健，医学書院						
*参考文献については講義時提示する						
6. 準備学習						
事前学習：授業計画の内容をもとに、各自自習した上で授業に臨むこと。						
事後学習：配布資料を復習する。						
7. 成績評価の方法						
1) クラスへの参加度（授業へのコミットメント、問題発見、プレゼンテーション等）40 点						
2) 課題レポート 60 点						
					合計 100 点	

8. 履修の条件

特になし

9. その他

授業日の詳細は授業時に説明する。

授業コード	科目名	助産学研究 Nursing Research in Midwifery			担当教員	小西清美、阿部正子、 岡部麻里、長嶺絵里子、 大浦早智
助 124					E-mail	konishi@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
2	1	通年	6	新研 419	月曜日 5 限・金曜日 5 限	
1. 授業の概要						
<p>助産師が日常、経験や慣習的に行っている助産ケアの効果のエビデンスについて、文献から収集し、意図的で効果的な助産実践につなげるための研究的視点を修得する。研究は、研究領域の文献レビュー、テーマの選択、研究目的、概念枠組みの明確化、研究計画の立案、研究方法の選択、データ収集、結果の分析、考察など、研究のプロセスに基づき実施し、論文を作成する。また、研究発表を実施し、他者の研究成果を聞くことによりEBMに基づいた助産実践の重要性を理解する。</p>						
2. 到達目標						
<p>1) 周産期に関連した文献検討を通して、助産ケアのエビデンスや知見を得る。</p> <p>2) 文献研究のプロセスをたどることができる。</p> <p>① 文献研究の意義と研究方法について理解する。</p> <p>② 文献クリティークの視点を述べることができる。</p> <p>③ 助産実践を研究的視点で多角的に分析・解釈できる。</p> <p>④ 研究論文が作成できる。</p> <p>3) 助産ケアの妥当性・課題を明確にできる。</p>						
3. ディプロマ・ポリシー（DP）との関連性						
<p><倫理観、態度></p> <p>(DP1) 思いやりのある豊かな人間性を培い、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力</p> <p>(DP4) 産む人のニーズを尊重した満足で安全な分娩介助ができる能力</p> <p>(DP6) 助産師としての責任と義務を認識し、グローバルな視点で地域・国際社会に貢献できる能力</p> <p>(DP7) 社会の変化を敏感に察知し、生涯にわたり自己の資質の向上に努める能力を身につけ、助産学の発展に貢献できる能力</p> <p><専門的知識・技能・思考力・判断力・表現力></p> <p>(DP2) 女性・子どもにおけるリプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する支援ができる能力</p> <p>(DP3) 離島・へき地の地理的特性を踏まえた 周産期における母子及び家族の健康課題の支援ができる能力</p> <p>(DP5) 保健・医療・福祉・行政との連携を図り、協働して継続的な支援ができる能力</p>						
4. 授業計画と内容						
<p>1-10 回では、①周産期に関連した文献検討を通じて、助産ケアのエビデンスや知見を得る。②文献を実際にクリティークすることで、研究活動における文献の活用役に役立つ。③研究方法である量的研究、質的研究を学び、さらに、海外の文献についても検討する。これまでの授業を踏まえて、11 回以降の助産学研究では、研究課題を明らかにして、文献研究を行う。研究課題は、これまでの講義演習や助産実習から興味関心のある課題・疑問を見つけ、文献検討し、助産ケアのエビデンスを探求し、研究的視点で考察を深めるプロセスについて学習する。</p>						

第1回	ガイダンス：助産師と研究、助産師が活用できるエビデンス、推薦図書（看護研究など）（小西）
第2回	量的研究のプロセス（小西）
第3回	文献検索・文献検討（図書館の活用法）（青山）
第4回	量的研究：文献クリティーク（小西）
第5回	質的研究、事例研究（阿部）
第6回	質的研究：文献クリティーク（阿部）
第7回	文献研究：文献クリティーク（小西）
第8回	（英文抄読）①（岡部・大浦） 母子保健に関する英語論文に関する紹介、英語論文の理解（読み方）・翻訳等、
第9回	（英文抄読）②：（岡部・大浦） 英語論文クリティーク：演習（周産期のケアやウィメンズヘルスに関連した海外の文献検討を通して、助産ケアのエビデンスや知見を得る）
第10回	文献研究に関する論文作成について（小西）
	【後学期】
第11-21回	文献研究の論文作成（各担当教員） ・文献研究は、多数の文献レビューを通して、研究的視点で論文をまとめる。
第22-23回	助産学研究の発表会、まとめ・評価 2025年1月17日（金）：論文提出 2月21日（金）：助産学研究 論文発表会
5. テキスト・参考文献	
我部山キヨ子他編「助産学概論 第5版」（助産学講座1）、医学書院。 *この他の参考図書は、随時紹介する。	
6. 準備学習	
文献検討では、必ず文献を読み、課題を提出する。	
7. 成績評価の方法	
レポート課題（論文作成）	80点
活動状況（授業態度、授業へのコミットメント等）	20点
合計	100点
8. 履修の条件	
特になし	
9. その他	
担当教員の指導を受けて、研究計画書作成、文献検討、論文作成、論文発表まで計画的に進めていく。	